

G3 のツイッター その 59

烈剛河内 竹井 保満

昨日 2 月 3 日は春分と言うことで、鬼追いの豆まきをしました。鬼追いの起源は中国の追儼の儀として日本に伝わり、後に鬼追いになったとされています。自分どもの不摂生や、怠惰を鬼のせいとされては鬼もたまりません。折りしも東京青山の根津美術館で酒吞童子絵巻展が開催されています。事情が許せば見に行きたいのですが残念です。日本の鬼退治の話は色々ありますが、桃太郎の鬼征伐、一寸法師の鬼退治、それに大江山の酒吞童子退治でしょう。然し前の二つの話は、時や所がはっきりしておりませんが、酒吞童子の話は登場人物が歴史上の人物で、源頼光や、熊と相撲を取った坂田の金時や都都逸に出てくる渡辺綱 “渡辺の綱にやりたや、この右腕を、主と添い寝の邪魔になる” など、然も、時の西暦 980 年代の天暦年間の出来事なので真実味を帯びてくるのも当然かもしれません。

大江山の鬼退治の話は、皆さんはよくご存知ですが、鬼が大江山に住むようになった話はあまり知られていません。この話は根津美術館の絵巻物展の前段に描かれています。起因は、出雲の国の八岐大蛇まで遡ります。天照大神に追い出された須佐之男が出雲に来て、娘との結婚を条件に八岐大蛇を退治します。その後、八岐大蛇は伊吹山に祭られ伊吹大明神に成りました。長い長い年月が流れます。伊吹大明神に使える弥三郎と言う男が居ました。酒好きで大酒を飲んで暴れたり生き物を食べたりして、鼻つまみ者でした。伊吹山の麓に大野木殿と言う侍がおり、その侍に美しい姫がいました。弥三郎は夜な夜な姫を訪れ子を産ませます。その子が伊吹童子で長するとハムサムで力持ちの青年になり、大勢の娘たちに恋れます。その恋文を全部焼きますが、その煙が怨念となってハムサムの伊吹童子は鬼になってしまい大江山に住むようになります。

「昔、丹波の大江山、鬼ども多く籠り居て、都に出ては人を食い、金や宝を盗み行く。源氏の大將頼光は、時の帝の詔、お受け申して鬼退治、勢い良くも出かけたり」と歌のとうり目出度しめでたしと成る訳です。

八岐大蛇は酒を飲ませて殺されます。エジプトやギリシャ神話にも九つの頭を持つ蛇が酒を飲まされて退治される話が有ります。鬼も酒を飲んで殺される話は国内にも沢山あります。暴飲を戒めるために作られたお話でしょうか。

私も、施設の食事の味付けが合わないので、食がすすみません。それで、赤のワインをグラスに半分頂いております。アルコールは体内で分解され、アセトアルデヒドに替わり癌を起こす物質となるそうですが、さらに、アルデヒド脱水酸素の働きで酢酸になるようなので、癌になる心配をせずに一杯だけ頂きます。